

もっと!ふれあう

月刊

あづみの通信



「金魚を眺める猫!」

何を考えてるんでしょう?(笑)
可愛いですね...

施術者紹介

マッサージ師の上野です。



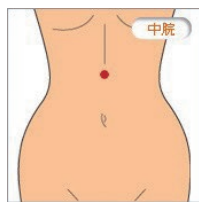
趣味は絵を描く事です。切り絵をするのも好きです。
最近、食へ歩きしながら写真を撮って周るのかもお気に入りです。
毎日暑いですね。こんな日は冷たい物が欲しくなります。

夏バテ予防を兼ねて今月のツボは《中腕 チュウカン》を紹介致します。東洋医学的に見て「中腕」は気がココから湧き、全身の経絡を巡るとされています。「中腕」は、臍と鳩尾(みぞおち)を結んだ線状の真ん中に当たる場所にあります。

ゆっくり息を吐きながら押し上げてくだささい。ココは強く押すと痛みが出やすいので優しく押ししてくださいね。

気の流れを整える事で、病気の予防や回復力アップ!また冷たい物を取って弱った消化機能を良くして、効果などもあるそうです。

これから暑い日が続きますが、夏バテしないように一緒に頑張ってください!



今月の TOPICS

ペット紹介



警察に保護されていたものを、十数年前に、貰って来ました。

機嫌がいいと片足を上げて歌を歌います(笑)。
我家の癒しの存在です。

ピーちゃん(オカメインコ)
安曇野市S様



作品紹介 (タペストリー)



こまかく丁寧に仕上げられた、素晴らしい作品ですね...
見るたびに、感動です!

某施設長の
75歳のお母さんの作品

ご利用者様の声

ウイズ豊科 ケアマネYさんからの声



最初は表情もかたく、全身の緊張がかなり強かったTさんですが、
マッサージをはじめて半年、やわらかくなって微笑んでいるような表情をされるようになりました。
右下肢の伸びも出て、全身の緊張はあるものの、
緩みやすくなってきました。

編集後記

今回は、貴重な戦争体験を掲載させていただきました...

風化させてはいけない歴史の記憶に、心寄せさせていただけたことに、心から感謝します。

まだまだ、暑い日々が続きます!
健康管理に注意し、夏を乗り切りましょう!

もっとふれあう あづみの通信編集委員会



医療保険適用・訪問マッサージ

ふれあい心のサービス 安曇野店

お問い合わせ

〒399-8203 安曇野市豊科田沢5111-1
TEL.0263-87-6806 FAX.0263-87-6816

ホームページを開設しました!

<http://www.fureaiazumino.com>

ふれあい心のサービス 安曇野

検索

特集

来る8月15日終戦の日を

迎えるにあたっての戦争体験記。

今回は、終戦の日を迎えるにあたり、7年間、お付き合いさせていただいている、松本市在住 Sさんの、壮絶な体験を特集させていただきたいと思えます。

Sさんは、昭和5年生まれの、86歳になる、男性の利用者さんです。

石川県珠洲市飯田町に男6人、女4人の10人兄弟の5番目として誕生しました。

昭和19年3月（Sさん14歳の時）、一家の口減しもあり、友達と共に船員に志願し、働き始めました。

その内容は… 軍事物資である弾丸等の輸送で、米をクッションが

わりに上に乗せ、敵の攻撃から守りながら船で運ぶ仕事でした。

また、兵隊訓練もSさん達少年もしていたそうです。

船員の構成は、兵隊15名、運送船員8名、それからSさんのような少年5名、だったそうです。

その輸送先は、主に石川県から鹿児島・種子島・下関…と、多岐に渡ったそうです。

中には、沖縄に向かい、2度と帰らなかつた仲間の船もあり、Sさんと同じくらいの、たくさんの学童が亡くなってしまったそうです。

まさに兵隊予備軍として働きたしたSさんは、最少であったために、主に血洗いや雑用を担当していた…

と、ここまでの当時の様子を、淡々と話してくだ

さいました。

当時、その周

辺の船舶は、長崎県の五島列島に連絡所兼管理所のようなものがあり、長崎県常盤町に停泊し、上陸、そこで煮炊きしていたそうです。

その場所の、隊長は愛媛県松山の人だったそうです。

その日、Sさんは、いつものように朝食を煮炊きするために、砂糖を倉庫から運び出していた時…

突然！駅の方角から、

シューー という音がし、ピカッ と光り、ドン という凄まじい音が聞こえたそうです。

慌てて建物に走り、机の下にもぐり身を伏せじっとしていたそうです。

ガラス窓は割れ！右肩からは、ガラスが刺さった様子もないのになぜか、血が流れる怪我を負ったそうです。

その時の様子を、その当



変わり、右手に10円玉の大きさの水泡ができ、その水泡が破れ上着につき、開いたままの傷が治らない、また、鼻をかむと鼻血が必ずでたり、心臓がバクバクする等の症状が出てきたそうです。

このような症状は、医者にかかっても、改善することも、治ることもなかったそうです。

その症状が原因で、仕事が出来ない辛い日々が、2年間ほど続いたそうです。

それでも仕事を少しずつはじめ、昭和30年頃からは思うように動かない身体でも周りの人たちと同じように仕事をしてきたそうです。

その後、松本に来ることになり、症状改善のためにかかっていた、また、田川沿いにあったころの協立病院を受診し、原子爆弾後遺症の認定がされ、自分の症状の原因が被爆のせいだと、名実ともにハッキリしたそうです。

今回、Sさんの辛い体験を掲載させていただくこととなったのは、5月27日、偶然にも、Sさんのお宅に訪問させていただいた際に、テレビから流れてきたオバマ大統領の広島での

スピーチを一緒に感じさせてもらったことがきっかけとなりました。そのスピーチの内容は、71年前、雲一つない明るい朝、空から死が落ちてきて、世界は変わった！

人類が、自らを破壊するすべを手にいれた！と、核爆弾を表現し、第二次大戦の全ての犠牲者に追悼の意を表明し、「いつか証明する被爆者たちの声は聞けなくなる、それでも、1945年、8月6日の記憶を風化させてはならない」

広島、長崎は、核戦争の夜明けではなく、道徳的な目覚めの始まりだと、演説していました。

そのスピーチを聞きながら、ポツポツと、時に涙ぐみながら話してくれました。

私は、何度か、話し辛いことは話さなくていいです、と、お声がけしましたが、Sさんは話し続けてくれました。

最後に、私どもが、このような事を言うのはおこがましいかも知れませんが、戦争のない世界を祈りつつ、世界で犠牲になった全ての方々に哀悼の意を捧げ、この特集を閉じたいと思えます。